

令和6年4月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.59

～ 令和5年度修理事業 ③ ～



うみ: 寒いと思っていたけど、すっかり暖かくなりましたね。

建吉: ほうじゃのう。桜の花も咲いてきたのう。

うみ: 春の宮島は桜もだけれど、宮島町の花として指定されていたアセビも春の花だし、色とりどりの花で本当にきれいですよね。

建吉: ほうじゃのう。今年も花で彩られとる宮島をたくさんの人にみてもらいたいのう。

うみ: そうですね。そういえば、棧橋ターミナルから町家通りの方に歩いていると、存光寺の門の修理が終わっていましたよ。

建吉: ほうじゃ。山門のことじゃのう。あの山門は修理するのに一度解体してあそこからなくなったけえ、山門の修理が終わると、存光寺らしゅうなってええなったのう。

うみ: そうね。山門の色は前より赤くなったのね。

建吉: ほうじゃ。ありやあはベンガラの色なんじゃが、内部の^{かえるまた}臺股の色に合わせて、ベンガラが塗られた当時の色に戻したんじゃ。これまでの色は、100年以上が経っ



修理前



修理後

たけえ、経年劣化で色が褪せとったんじゃ。それに伝建の修理は元の姿に戻す工事じゃけえ、今までより鮮やかな色になったんじゃ。今回の修理じゃあ、北側や南側の懸魚^{げぎよ}も修理したんじゃ。

うみ: 懸魚ってどこのことかしら。

建吉: 懸魚^{は ふいた}つちゅうのはのう、神社やお寺の破風板

部分に取り付けられた妻飾りのことなんじゃ。屋根の構造が、切妻造^{きりづまづく}りか入母屋造^{いりもやづく}



懸魚 (げぎよ)

りじゃったらいいて付けられとるんじゃ。この懸魚^{げぎよ}は名前のとおり「魚^かを懸^かける」ちゅうことで、水と関わりの深い魚を屋根に懸^かけることで「水をかける」つちゅう意味に通じとってのう、火災除けの願いを込めて付けられとるんじゃ。今回の修理じゃあ、よう夕陽が当たる西側は朽ちてしもうとったけえ、懸魚^{げぎよ}も取り替えたんじゃ。それにのう、今回の修理じゃあ、使われとる材に手斧^{ちやうな}の跡もみられたんじゃ。

うみ: ちやうなって何ですか。

建吉: 手斧^{ちやうな}ちゅうのはのう、斧のひとつで材料の表面加工に用いられとったんじゃ。現在の^{かん}鉋が發明される前は、ちやうなで表面を平らに仕上げとったんじゃ。手斧^{ちやうな}で削った跡は波形になって手仕事ならではの木の表情があるんじゃ。

うみ: 修理をすることで分かることがたくさんあるんですね。

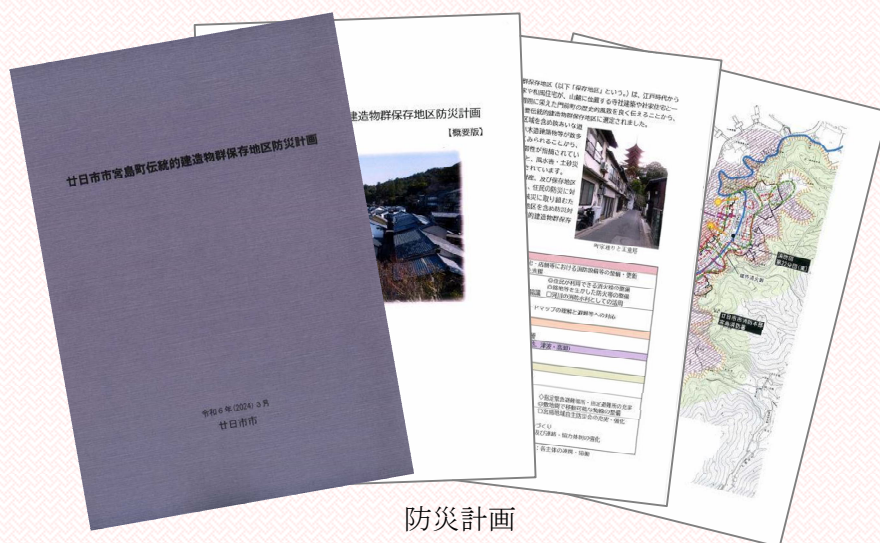


手斧^{ちやうな}の跡

防災計画を策定しました

昨年、アンケートやワークショップなどでご意見をいただき、議論を進めていた伝建地区の防災計画を策定しました。

こちらでは、主に火災や地震、津波などを想定した計画となっており、耐震については、別途、令和5年度、6年度で耐震の手引きとしてまとめる予定です。これから、この計画に基づきながら安心安全につながるようこの計画を実施していく予定です。



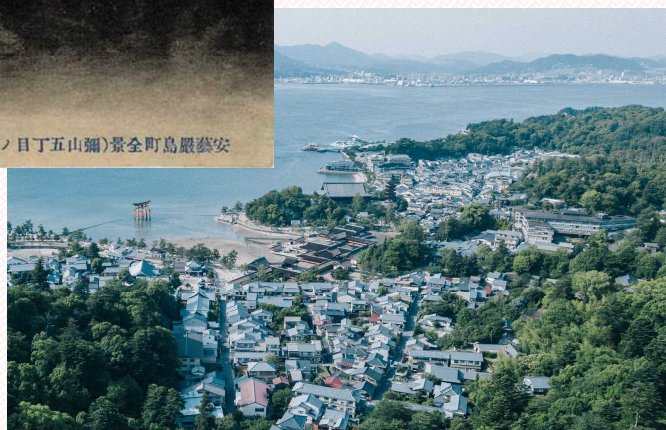
防災計画



弥山からの眺望は、大聖院から大願寺に向けてのびる通りと南町に向けてのびる滝小路がよく見え、地割（区画）が昔から変わっていない様子がよく分かる。

今昔写真を見比べて

大正5年の弥山からの眺望
2階もしくは平屋建ての建物が多く、千畳閣の大きさが目立つ。
通り側に屋根が下る平入りの建物が多いため、通りの様子がよく見える。



職員【宮島企画調整課】異動がありました

令和6年度はこのメンバーで頑張ります!!

課長 佐々木

歴史まちなみ保存活用係 広田 清水 平本 長畑

宮島まちづくり推進係 児玉 好本 西岡

お世話になりました。

担当課長 清水 役職定年（係員へ）

宮島まちづくり推進係 二宮 退職

梅本 異動

まちなみ通信 No. 59（令和6年4月1日）発行

廿日市市経営企画部宮島企画調整課宮島まちづくり推進係 TEL (0829) 30-9119 FAX (0829) 32-1059